GARDENCITYNEWS
自然と人間が共生できるまちづくり

ガーデンシティふかや推進室［ふかや緑の王国・深谷市櫛引24－2（花植木流通センター隣）］☎551－5551

花を愛し、人を愛し、地域を愛するまちづくり!!

ふかや学校花はなプラン ～地域でこどもを育てる～

花はなPLAN FUKAYA HANAHANA PLAN SCHOOL

学校花はなプランとは、学校だけでこどもの教育をするのではなく、地域で将来の日本を担うこどもを育てられるよう、こども・学校・幼稚園・PTA・地域が、一緒になって花壇づくりを行う活動です。

市内小・中学校、幼稚園の皆さんのご協力で、花壇づくりが行われています。

▲藤沢幼稚園

▲深谷西小学校

▲川本北小学校

▲幡羅中学校

▲上柴中学校

▲岡部中学校

▲藤沢中学校

『ドライフラワーになるスワッグづくり教室』参加者募集

人気のオージープランツを使ったスワッグです。ドライフラワーになる様子を楽しめます。

と　き　1月28日㈬午前10時～11時30分
ところ　ふかや緑の王国　　**定　員**　20人（抽選）
参加料　3,000円（材料費を含む）　**講　師**　本庄バラ園
申し込み　1月7日㈬午前9時から13日㈫午後5時までに電子申請（右記QRコードからアクセス）※1回の申し込みで2人まで　※電子申請ができないかたは電話で申し込みも可

◀作品イメージ
※当日使用する花材と異なる場合があります

『親子で自然観察＆パタパタ飛行機づくり体験』参加者募集

ふかや緑の王国内の自然観察と、ゴム動力で羽をパタパタ動かして飛ぶ飛行機を作ります。

対　象　小学生と保護者
と　き　1月31日㈯午前10時～11時30分　　**ところ**　ふかや緑の王国
定　員　12組（抽選）※小学生1人につき保護者1人参加可
参加料　1組1,000円（材料費を含む）
申し込み　1月14日㈬午前9時から19日㈪午後5時までに市公式LINEで『子育て・健康』→『公民館などの教室・講座の申込予約』から選択して必要事項を入力　※市公式LINEから申し込みができないかたは電話で申し込みも可

▲市公式LINE

▲作品イメージ

『深谷オープンガーデン花仲間』会員募集　説明会＆お庭見学会

『深谷オープンガーデン花仲間』は毎年4月、5月に個人や企業、団体の庭を一般公開しています。深谷の春をたくさんのかたに楽しんでもらうため、新規会員を募集しています。

『深谷オープンガーデン花仲間』についての説明会とお庭見学会を行いますので、興味のあるかたはぜひご参加ください。

対　象　深谷市に所在のある個人・企業・団体
と　き　3月14日㈯午前10時～正午
ところ　ふかや緑の王国多目的室および会員の庭
申し込み　1月21日㈬午前9時から2月27日㈮午後5時までに問い合わせフォーム（右記QRコードからアクセス）から必要事項を記入し送信または電話で深谷オープンガーデン花仲間代表・栗原さん（☎090-7183-3481）へ

▲会員の庭

『ガーデンシティふかや』『ふかや緑の王国』ホームページのほか、X（旧ツイッター）（@garden5551）、『ガーデンシティふかや』フェイスブックもご覧ください。

障害者施設を紹介します

就労継続支援B型　くらいむなう

就労継続支援B型事業所は、障害や体調などの理由で就労が難しいかたが、自分のペースで働く力を身に付けるとともに、生活面や対人面などを一緒に考えていく場所です。

くらいむなうは、『やってみたい！』という気持ちを大切に、いろいろな仕事にチャレンジできるのが特徴の、いつも笑顔と元気があふれる明るい事業所です。屋外に出て体を動かしてアクティブに取り組む作業、室内で落ち着いて進められる作業など、その人に合った作業や、その日の体調・心の状態を考えて仕事を提案しています。無理をせず、一人ひとりの個性やペースを尊重しながら取り組めるから、安心して続けられます。私たちは『楽しく』『自分らしく』をモットーに、笑顔を大切にしながら、仲間と一緒に日々活動しています。新しいことにチャレンジしたいかたも、自分の得意なことを伸ばしたいかたも、くらいむなうで最初の一歩を踏み出してみませんか？見学も可能ですので、ぜひ一度お越しください。

▲インスタグラム

問株式会社プルス　くらいむなう（☎070－3864－1322）、障害福祉課（☎571－1011、FAX574－6667）

青淵遺薫　栄一の小話

『渋沢家のお正月』

渋沢栄一の数少ない趣味に『詩作』と『書』があります。栄一は元旦に漢詩を作り、それを揮毫してみんなに披露することをよく行いました。栄一は、書く時の心地について「ほかのことは何も頭に浮かばなくて無心になるのが大変愉快である」と語っています。また、家族の前で渋沢家の家法・家訓を栄一自ら唱えることも正月の習わしとしていました。そうした合間にも来客はたくさんあり、正月でさえ栄一や家族は忙しく過ごしていた様子がうかがえます。

郊外に別荘を持たなかった渋沢家は、正月に箱根や大磯などの温泉で静養することもありました。しかし、そこへも来客があり、静養といっても忙しなかったようです。あるときの正月には、近代落語の祖といわれる三遊亭円朝を伴って徳川慶喜のいる静岡へ出かけ、慶喜に落語を楽しんでもらったという話もあります。

正月に一家団欒して、かるたなどを楽しんだという記録はありませんが、このようなエピソードがあります。息子の秀雄が学生の時に、友達とトランプで遊んでいるところへ栄一が帰ってきて、最初は見ているだけでしたが、途中からゲームに参加した栄一は、初心者なのにやたら強く、次第に熱を帯び、とうとう徹夜になったそうです。そんな栄一ですから、正月にかるたなどで、こどもたちと真剣勝負をしていたかもしれません。

▲道の駅などで販売している『栄一翁かるた』。ぜひ手に取ってみてください。